

AGC *Review*

[株主通信]

Vol. **26**

2015年3月発行

AGC 旭硝子

証券コード：5201



ご挨拶

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年1月より社長執行役員CEOに就任いたしました島村琢哉でございます。

2014年の業績は、自動車用ガラスを中心としたガラス事業や化学品事業の出荷増に加え、円安の影響で増収となったものの、液晶用ガラス基板や東欧の建築用ガラスの販売価格下落等の影響を受け、前年度に比べて減益となりました。なお、期末配当金については、期初予想どおり1株当たり9円とし、年間配当金は1株当たり18円となります。

このたび、新経営体制のもと、AGCグループの新たな経営方針 **“AGC plus”** を策定いたしました。その内容を特集ページに紹介しておりますので、ぜひご覧ください。**“AGC plus”** で掲げた経営目標の達成に向けて、役員・従業員一同、全力を尽くす所存です。

今後ともAGCグループになお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役兼社長執行役員CEO

島村 琢哉

島村CEO インタビュー

このたび、新たな経営方針“**AGC plus**”を策定いたしました。新経営方針における目標や戦略、AGCグループCEOに就任した意気込みなどを、新CEOの島村がご説明いたします。

Profile

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|---------------------|
| 1980年4月 | 旭硝子株式会社入社 | 2010年1月 | 執行役員化学品カンパニープレジデント |
| 2003年2月 | アサヒマスケミカル株式会社 社長 | 2013年1月 | 常務執行役員電子カンパニープレジデント |
| 2006年5月 | 旭硝子株式会社化学品カンパニー企画・管理室長 | 2015年1月 | 社長執行役員CEOに就任 |
| 2009年1月 | 執行役員化学品カンパニー企画・管理室長 | | |

Q1 社長就任にあたって、これまでの経歴や意気込みをお聞かせください。

化学品の営業として入社し、インドネシア子会社の社長やプレジデントなど、化学品事業に約30年間従事してきました。この2年間は電子カンパニーのプレジデントを務め、これまで化学品と電子、ふたつの事業の責任者を経験しました。

当社は、過去4期減益が続いていますが、すでに

再び成長軌道に戻すための施策に着手しています。私のやるべきことは、進行中の施策をやりきり成果を刈り取ること、そして新たな成長に向けたスタートを切ることです。それらを確実に達成するため、新たな経営方針“**AGC plus**”を策定しました。

Q2 新経営方針“**AGC plus**”について教えてください。

当社は、“**AGC plus**”のもと、すべてのステークホルダーに価値をプラスすることで、業績の回復と持続的な成長を目指します。

AGC plus

私たちAGCグループは、

- 世の中に「安心・安全・快適」を
- お客様・お取引先様に「新たな価値・機能」と「信頼」を
- 従業員に「働く喜び」を
- 投資家に「企業価値」を プラスする。

株主の皆さまに対して、当社は「企業価値」をプラスします。そのための方策はふたつ。ひとつはマーケット視点と多様性を活かした売上高の拡大、もうひとつはメリハリある経営資源配分による資産効率の向上です。

その結果として、2017年には右表に示す経営財務目標の達成を目指します。

2017年度の経営財務目標	
売上高	1兆6,000億円
営業利益	1,000億円以上
ROE	5%以上
D/E	0.5以下

Q3 企業価値をプラスするための方策を具体的に教えてください。

AGCグループの強みは多様性です。ガラス、電子、化学、セラミックスの技術と設備、建築や自動車、電子業界など幅広い市場へのアクセス、グローバルな拠点展開、幅広い人財を有しています。

その多様性を最大限に活用しながら、マーケット視点に立ち、図1に示す3つの方向性で売上高を伸ばしていきます。

また、各事業の収益性と成長性を基軸とした図2にもとづき、戦略の方向性を明確にし、メリハリの効いた経営資源配分を行います。そして、2017年には各事業の売上高営業利益率を、ガラスで5%以上、電子と化学品では10%以上とすることを目指します。

これらの施策に加え、追加構造改革、M&Aやアライアンスなどを通じ、2017年の営業利益は1,000億円以上、ガラスと電子、化学品のバランスがとれた収益構造を目指します。

図1 売上の拡大の方向性

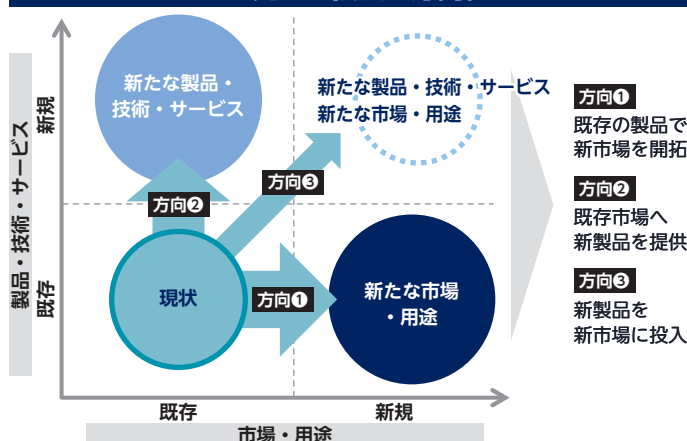
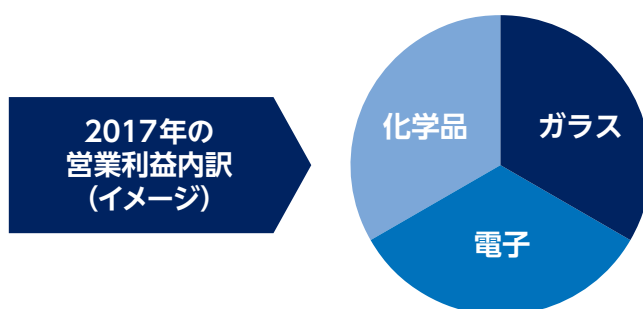


図2 各事業ごとのポートフォリオ

	成長	キャッシュ創出	体質強化	2017年目標
ガラス	・自動車用ガラス	・建築用ガラス(新興国)	・建築用ガラス(先進国)	ROS 5%以上
電子	・電子部材 ・化学強化ガラス ・超薄板ガラス	・液晶用ガラス		ROS 10%以上
化学品	・クロールアルカリ(海外) ・フッ素 ・ライフサイエンス		・クロールアルカリ(国内)	ROS 10%以上

※ROS：売上高営業利益率



Q4

今期の業績見通しについて教えてください。

前期にガラス事業は黒字化、化学品事業も成長軌道に乗ってきました。電子事業の減益幅も緩やかになっているため、今期は減益トレンドからの脱却を目指します。ただし、現在進めている成長投資の多

くは、2016年以降に収益貢献するため、本格的な回復は来期となります。今期の営業利益は、前期比ほぼ横ばいの620億円を見込んでいます。

Q5

株主還元についての考えをお聞かせください。

株主還元の考え方に変更はありません。安定配当の継続を基本として、配当性向の目安を30%と

し、業績や将来の投資計画等を総合的に勘案して株主還元に努めていきます。

Q6

株主の皆さまへ一言お願いいたします。

私の座右の銘は、アメリカの教育学者、ウィリアム・アーサー・ワードの言葉。

取るに足りない教師はただ喋るだけ
少しましな教師は説明しようとする
優れた教師は自分でやってみせる
偉大な教師は人の心に灯をともし

教師をリーダーに置き換えれば組織の話になります。私が従業員の心に灯をともし、AGCグループ一丸となって、私たちを取り巻く課題にあきらめずにチャレンジすることで、何としても減益トレンドから脱却し、経営目標を達成すべく全力で取り組んでまいります。株主の皆さまの一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



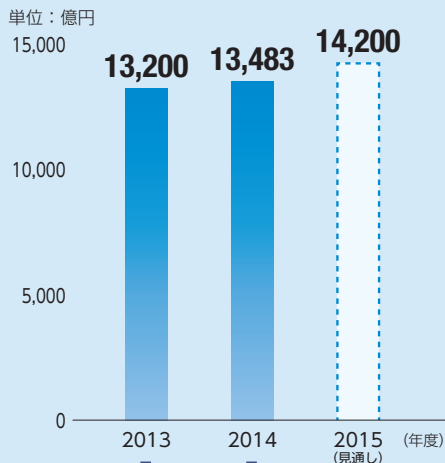
業績ハイライト

2014年度業績のポイント

- 売上高** 自動車用ガラスを中心とするガラス製品および化学品の出荷増加、さらに円安の進行により増収
- 営業利益** 液晶用ガラス基板や東欧の建築用ガラスの販売価格下落、原燃材料価格の上昇、円安による一部海外子会社の収益性低下等により減益

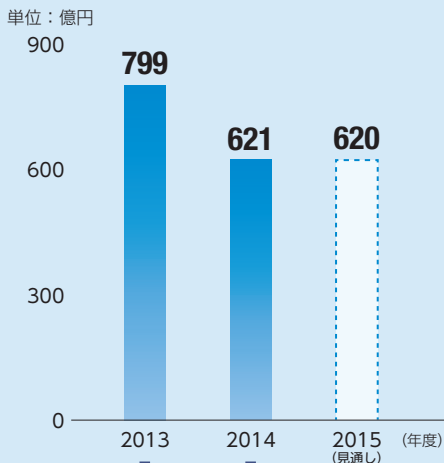
売上高

13,483 億円 (前期比 2.1% 増)



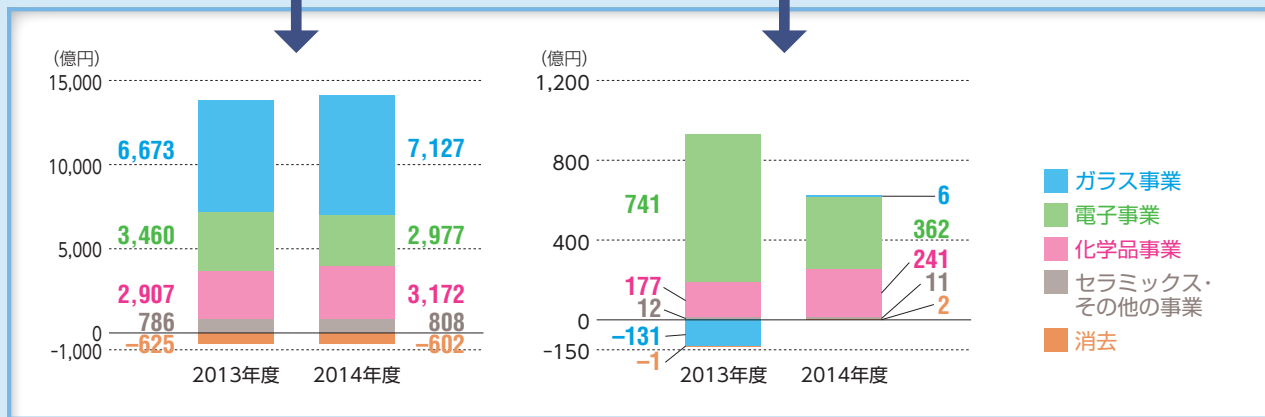
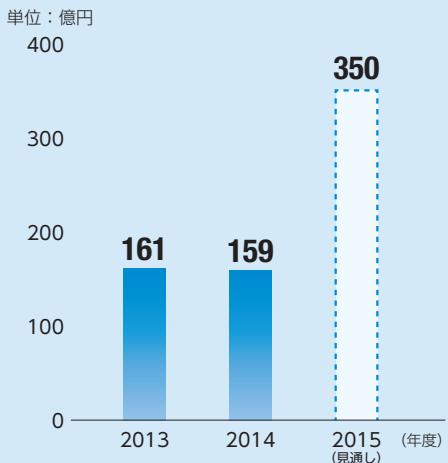
営業利益

621 億円 (前期比 22.2% 減)



親会社の所有者に帰属する当期純利益

159 億円 (前期比 1.4% 減)



トピックス

「WONDERLITE®」がメルセデス・ベンツに採用

AGCグループの調光ガラス「WONDERLITE®」が、メルセデス・ベンツSクラスクーペのオプション装備である「マジック・スカイ・コントロール」に採用されました。同オプションは、スイッチ操作によってガラスの色を透明からダークブルーに変更できる世界最大の調光ガラスルーフです。

今回採用されたWONDERLITE®は、従来の調光ガラスルーフの3倍の大きさがあり、特殊コーティングにより紫外線や赤外線をカットし、自動車の快適性向上と省エネに貢献します。



透明モード



調光モード

担当者より

VOICE



お客様の要求を満たす製品設計をすることは非常に困難でしたが、多くの新技術を搭載し、WONDERLITE®をご採用いただくことができました。今後の目標は、今回の経験を活かし、他の自動車にもWONDERLITE®をご採用いただくことです。

AGCオートモーティブ・ヨーロッパ
WONDERLITE
プロジェクトリーダー
正木 裕二

Q 工場や社内の様子などを見たい

当社では、2013年より個人株主様向けの工場見学会を実施しています。

2013年と2014年には、鹿島工場にて個人株主様向けの工場見学会を開催いたしました。板ガラスを生産するフロート窯や省エネガラス生産設備などの見学、質疑応答を通じ、株主様に当社についての理解を深めていただいております。

今後も継続的に工場見学会の実施を予定しております。詳細については、今後の株主通信でお知らせいたします。



2014年の工場見学会の様子

Q 個人のアドレス宛にIR情報などを送ってほしい

当社ホームページより、ニューズメールの配信登録をお願いします。

当社では、投資家の皆さまに当社のIR関連ニュースをお届けするニューズメール配信サービスを提供しております。当社ホームページの株主・投資家情報 (<http://www.agc.com/ir/index.html>) より、ご登録ください。



ご登録はこちら

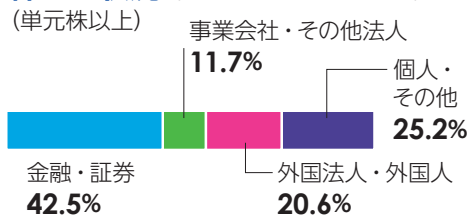
会社概要 (2014年12月31日現在)

商号 旭硝子株式会社
 英文社名 Asahi Glass Company, Limited
 創業 1907年9月8日
 設立 1950年6月1日
 資本金 90,873,373,264円
 本社所在地 〒100-8405 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 (新丸の内ビルディング)
 電話 (03) 3218-5096
 連結対象子会社数 194社 (うち海外156社)

株式の状況 (2014年12月31日現在)

発行済株式総数 1,186,705,905株
 株主数 80,557名
 (単元株以上株主 69,261名)

株主の状況 (2014年12月31日現在)



株式関連情報

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会開催月 3月
 基準日 定時株主総会 12月31日
 期末配当 12月31日
 中間配当 6月30日

公告方法 電子公告

[公告掲載アドレス] <http://www.agc.com>

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
 三菱UFJ信託銀行株式会社

[電話お問合せ・郵便物送付先]
 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 (0120) 232-711 (通話料無料)

株式に関するお問合せ先

証券会社等に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
口座を開設されている証券会社等	三菱UFJ信託銀行株式会社 (特別口座管理機関) 電話 (0120) 232-711 (通話料無料) ※特別口座に記録された株主様の住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取、口座振替に必要な各用紙のご請求は、特別口座管理機関のフリーダイヤル (0120) 244-479 (24時間・自動音声対応) をご利用ください。

上場株式等の配当等に関する「源泉徴収税率」のご案内

証券税制における軽減税率の適用終了に伴い、2014年1月1日以降に支払われる上場株式等の配当等には、原則として20% (所得税15%、住民税5%) の源泉徴収税率が適用されます。また、復興財源確保法 (略称) により、2037年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されます。

	2013年1月1日から2013年12月31日まで	2014年1月1日から2037年12月31日まで
所得税	7%	15%
復興特別所得税	0.147%	0.315%
住民税	3%	5%
合計	10.147%	20.315%

○源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。

○本ご案内は、上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率について、一般的な情報をご提供するものであり、本ご案内の内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。

○本ご案内は2014年12月時点の情報をもとに作成しています。